

日本語教育におけるCan-do Statementsの活用を考える ＜介護福祉の日本語＞

西郡仁朗（首都大学東京）



介護福祉の日本語、専門日本語

EPA(経済連携協定)

在留資格「介護」

技能実習生

特定技能

標準的な日本語教育の流れは作れないか？



これまでの実践

Can-doステートメント作成の基礎となる 教育実践と知見の蓄積



EPA(経済連携協定) 候補者施設着任後の支援学習会 「アジアと日本の将来を担う看護・介護人材の育成」



2012~2017年度 東京都との大学の公学連携事業

EPA（経済連携協定）2008～

首都大学東京オープンユニバーシティ 「介護の専門日本語講座」

概要

期 間：2018年5月～

計年16回（1回3時間）

対 象：EPA介護福祉士候補者

会 場：首都大学東京
飯田橋キャンパス



- ・ 国家試験を題材とし、総合的な日本語力を高めることを目標
- ・ 就労現場・地域と日本語の授業がつながるような活動



介護福祉の日本語、専門日本語

標準的な日本語教育の流れは作れないか？

=>ERIA（東アジア・アセアン経済センター）からの委託研究
「介護の日本語Can-doリスト」

科学研究費

「介護の専門日本語教育のモデルカリキュラムの策定とICTを利用した学習コースの開発」

2018年より 介護職種の技能実習生の受け入れ

- 2年目の技能実習に移行するためには「技能実習2号」の取得が必要であり、介護の技能とJLPT N3レベル相当の日本語能力も要件
- 介護職種で求められる日本語能力は？

「共感的なやりとり」「傾聴」の重視、「オノマトペ」、及び一般には使われない介護の用語



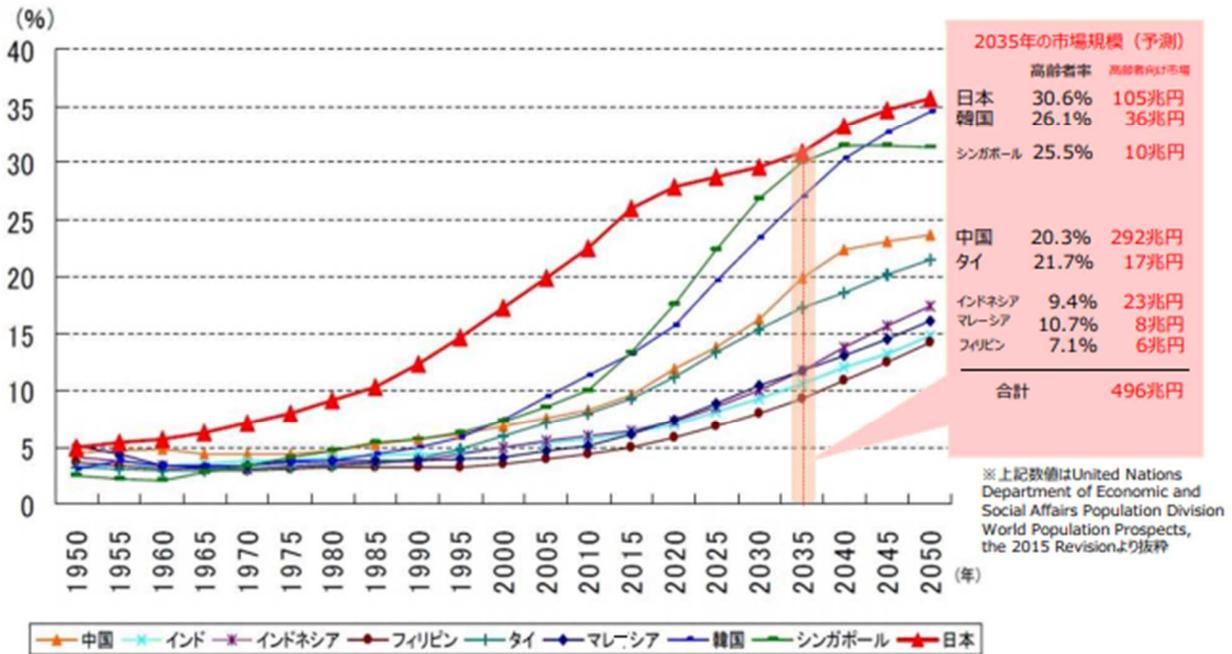
2016年から内閣官房・健康医療戦略室が 提唱している「アジア健康構想」

- アジア各国の高齢化 家族介護だけで社会の維持が可能か。
- 効果的な介護職種の技術移転：技能実習生
- 日本の介護制度の中でアジアの諸国に伝えていくべき優れた面
介護保険制度 地域包括支援センター
自立支援介護



アジア諸国の高齢化率の推移と2035年の高齢者向け市場*の推計

*「高齢者向け市場」= 「医療・医薬産業」+「介護産業」+「生活産業」



グラフ出所：「特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター」2011年10月3日

2016年から内閣官房・健康医療戦略室が提唱している「アジア健康構想」

- 介護の現場の実態に合致した「介護の日本語テスト（仮称）」日本語教育の充実が必須

JF スタンダード参照

介護の日本語のCan-doステートメント (KCDS)

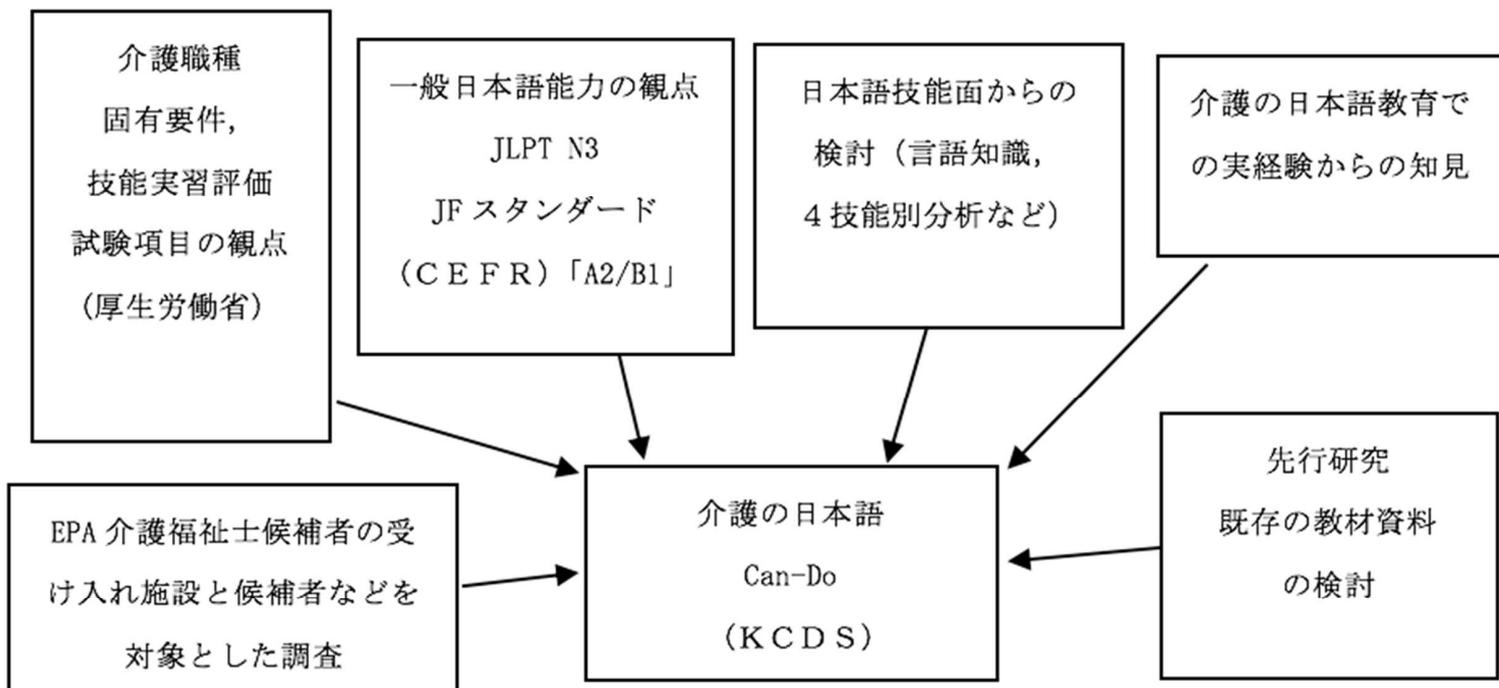


図1 KCDSの作成プロセス

研究スタッフ（敬称略）

プロジェクト・リーダー 西郡 仁朗 <首都大学東京>

<首都大学東京チーム>

野村愛, 奥村恵子, 加藤真実子, 奥村匡子, 生出亜希

<国際交流基金日本語国際センターチーム>

築島史恵（統括）生田守, 高偉建, 篠原亜紀, 古川嘉子

<アドバイザー> 宮崎里司氏（早稲田大学）

KCDS 策定経過

- 第1回 パイロット調査
 - 47 Can-do項目候補
 - 22名 EPA候補者 インターネット調査
 - =>97項目候補
- 第2回調査 74名 EPA候補者
 - インターネット調査
 - K2aとK2bの区分 JFSとのレベル文言調整
 - =>119項目

KCDS 策定経過

- 第3回 国際交流基金による全国施設への調査
 - EPA候補者 746名 311施設
 - KCDS候補項目を実際に行なっているか できるか

「書く」項目にやっていない／やらせていないものが多い
候補者側と施設側に認識のズレが散見された
(できる／できない、させている／させていない)

項目の修正よりも、現場や日本語指導の中でこれまで以上に留意
が望まれるものという視点で整理 => **114項目**

K2a

技能実習に2年目に必要とされる介護の日本語Can-do
「話す」「聞く」「書く」「読む」68項目

K2b

技能実習に2年目に習得していることが望ましい介護
の日本語Can-do
「話す」「聞く」「書く」「読む」46項目

計114項目



下記で暫定公開中

<http://nihongo.hum.tmu.ac.jp/KCDS/>

KCDSは大文字

ERIAの審査を受けているため暫定版公開



KCDS K2aの例

No.4 <技能> 話す

KCDS

- 職員と食事をするとき、宗教上の理由やアレルギーなどで自分の食べられないものについて短い言葉で話すことができる。

<トピック・場面> 自己紹介

<対象・対話相手> 職員

<カテゴリー> 社交的なやりとりをする

<言語活動の種類> やりとり（口頭）

KCDS K2aの例

No. 35 <技能> 聞く

KCDS

- 介護食・日本茶（緑茶、ほうじ茶、玄米茶）などを見ながら、職員にゆっくりはっきり話してもらえば、提供の仕方や注意点を大まかに理解することができる。

<トピック・場面> 身体介助 食事介助

<対象・対話相手> 職員

<カテゴリー> 職員の指示・説明を聞く

<言語活動の種類> 受容（聞く）

KCDS K2aの例

No.43 <技能> 書く

KCDS

- 利用者の入浴日変更等、業務上の連絡事項を短い文でホワイトボードなどに書くことができる。

<トピック・場面> 業務連絡

<対象・対話相手> メモ・カード

<カテゴリー> メモ・カードを書く

<言語活動の種類> 産出（書く）

KCDS K2aの例

No.57 <技能> 読む

KCDS

- 職員にわからない言葉を説明してもらえば、ヒヤリハット報告書を読んで、必要な情報を理解することができる。

<トピック・場面> 業務連絡

<対象・対話相手> 報告書

<カテゴリー> 必要な情報を読み取る

<言語活動の種類> 受容（読む）

技能実習生のための介護の日本語テスト

「特定技能」の試験の議論との兼ね合い？ =>未実施。今後実施の方向。

KCDSをもとにした教材は作成されている=>首都大 オープンユニバーシティ

< 補遺 > 特定技能 1 号

- 日本語要件
- 「国際交流基金日本語基礎テスト」もしくは、日本語能力試験 (N4 以上) のいずれかに合格
- 「介護日本語評価試験」により、介護の場면을基本とした日本語の試験問題を出題
- 「介護のことば」「介護の会話・声かけ」「介護の文書」の各分野から出題し、介護現場で使われる日本語の理解を確認
- (KCDSが先行研究とされているが、実際に直接参照されていない)

技能試験・日本語試験の概要 (介護分野)

技能試験

「介護技能評価試験」

- 試験言語: 現地語
- 実施主体: 予算成立後に厚生労働省が選定した民間事業者
- 実施方法: コンピューター・ベースド・テスト (CBT) 方式
- 実施回数: 国外: 年おむね6回程度 国内: 検討中
- 開始時期: 平成31年4月

日本語試験

「国際交流基金日本語基礎テスト」(※)

- 実施主体: 独立行政法人国際交流基金
- 実施方法: コンピューター・ベースド・テスト (CBT) 方式
- 実施回数: 年おむね6回程度、国外実施を予定
- 開始時期: 平成31年4月から活用

「介護日本語評価試験」

- 実施主体: 予算成立後に厚生労働省が選定した民間事業者
- 実施方法: コンピューター・ベースド・テスト (CBT) 方式
- 実施回数: (国外) 年おむね6回程度 (国内) 検討中
- 開始時期: 平成31年4月

(※) 又は「日本語能力試験(N4以上)」

試験の実施状況

《フィリピン》

- 第1回を4月13日(土)・14日(日)にマニラで実施。受験申込者数は125名(男性43名・女性82名)。うち113名が受験。5/24
- 第2回を5月25日(土)～27日(月)、第3回を6月15日(土)・16日(日)、第4回を6月22日～24日(月)に実施。5/10 7/15/17

《フィリピン以外の国》

- 「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」(平成30年12月25日「外国人の受入れ・共生に関する関係閣僚会議」決定)の中で、国際交流基金日本語基礎テストを実施することとされた9か国(ベトナム、フィリピン、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ミャンマー、ネパール、モンゴル)のうち、国際交流基金日本語基礎テストの実施環境等が整った国から順次、試験の実施を検討

受け入れ態勢の整備、受け入れ後の研修 は今年度以降の課題

技能実習生と特定技能との制度的すみ分け

技能実習生、特定技能のための日本語能力の整理と試験の整備

各国での送り出しの制度が整っていない

⇔日本側との調整が進んでいない

アジア地域の中で日本が労働・研修の場として魅力的か

14業種の中で「介護福祉」が魅力的か